

第1回 外部評価報告書

令和3（2021）年2月

成安造形大学 質保証協議会

I 外部評価実施概要

1. 実施の目的

外部評価員に対し、自己点検・評価の結果を説明し、その結果に対する意見を外部評価員から聴取することで、評価の妥当性及び客観性を確保するとともに、改善策等を検討・実行し、本学の教育研究水準の向上を図る。

2. 対象年度及び実施方法

(1) 外部評価の対象年度

令和元年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

(2) 外部評価の実施方法

- ①外部評価員に対し、自己点検・評価内容の説明
- ②実地見学（主要な施設等の見学）
- ③外部評価員からの意見聴取、本学執行部との意見交換

3. 本学出席者

- 学長 岡田 修二 ○副学長 小寄 善通 ○学部長 泊 博雅
- 教務委員長 石川 泰史 ○共通教育センター長 千速 敏男
- 事務局長 高野 匡 ○総務・企画課長 安井 誠
- 入学広報課長 吉田 周平、五十嵐 亮介（実地見学のみ）

4. 外部評価員

- (1) 地方公共団体 部長
- (2) 県内企業（情報通信業） 部長
- (3) 県内企業（製造業） 代表取締役社長

(順不同)

5. 実施日時・次第

(1) 令和3年2月8日(月) 14:00-16:00

(2) 次 第

- 14:00 ~ 14:05 開会の挨拶
- 14:05 ~ 14:10 次第の説明など
- 14:10 ~ 14:45 自己点検・評価の説明
- 14:50 ~ 15:30 実地見学
- 15:30 ~ 16:00 意見聴取・交換

6. 配付資料

- (1) 令和元(2019)年度自己点検・評価書(外部評価用)
- (2) 2020 大学案内
- (3) ちれん vol.10
- (4) 2019 学修案内(シラバス)
- (5) 2019 成安手帖
- (6) クリエイティブサポート活用ハンドブック 2019 年度版
- (7) 近江学研究所関連

Ⅱ 外部評価員所見

※話された内容をテープ起こしし、そのまま記載。

【地方公共団体 部長】:

今日は見せていただいて、本当に工夫をされて、こういう事をされていらっしゃるというのが、私ども、美術、芸術に遠い人間から見ましても、本当に素晴らしい努力をされていることが分かりました。今年度、実はコロナのことで、美とといいますか、文化について考えた事が2つありました。

感想として述べるのですが、去年の4月に例の緊急事態宣言が滋賀県で出されたときに、一方で文化活動がほとんどなくなってしまったことへの対応をどうするかが話題になりました。こういうときだからこそ、心に潤いという陳腐な言い方ですが、ないといけないのではないかと、私は思いました。そういう意味では、コロナを経験してかえって大事な事と再認識したという感想です。

もう一つのコロナに関する話は、多くの知事がいろいろな所でテレビに出られて「今は独自の非常事態何とか中」という、パネルを出したりするのですが、あのデザインがいろいろなものがあって、あれがけっこう大事だということが分かりました。

飲食店の方々、あるいは一般の方々にこんな事を注意してくださいというのを資料で出すのですが、やはりこういうときに相手に必要な情報をうまく届けるという意味でも、とてもデザインというのは大事だと思いました。これが2つ、私の感想です。ですから、非常に意味があると、大事な事だと思います。

その事に対して質問が一つあります。私どもも成安造形大学の学生の皆さんに広報物等のデザインをしていただくことが多くあるのですが、やはりその需要が高まっている中で、企業さん等からデザインの依頼を受けた時に、その対価としてお金をもらい、そのリソースをうまく財政面につなげるという事はどの程度されているのか、お聞きしたいと思いました。

それから3つ目です。外部評価ということで、一つ気になるのは、評価をするとなると、目標、指標があって、それがどこまで達成されたかというのが基本的にあるのが普通なのですが、今日のこの評価書を見せていただいた際に、目標がどうで、それに対してどうだったのかというのが分かりにくいと思います。それをお考えいただくことはできないものかということです。

最後にもう一つお願いですが、私ども、特に総合企画部ではSDGsの推進をさせていただいております。県内の大学が14ありますが、SDGsで頑張っておられる所がたくさんあり、去年、岡田学長も来ていただいて、大学のコンソーシアムで会議をした際に「大学の垣根を越えて一緒にやろう」ということになったのですが、今年度は、成安造形大学さんにはそのプロジェクトに残念ながら参加をいただけませんでした。今年度、コンソーシアム事業で「大学生が見つけた滋賀のSDGs」というブックレットを、大学生の皆さん自ら作ってくれて、県内の大学がどんなSDGs活動をしているのかというのをマップにしました。ここ

に成安造形大学さんが入っていないので、ぜひ参加をいただきたいと思っております。

一方で、SDGs において文化ってどういう事が書いてあるのか調べてみたら、意外とSDGs にぴったりというのがありません。実は私どもも、今年度「文化振興指針」を、県で見直しをする際に、SDGs の視点で点検をしたのですが、「生涯学習の機会を促進し、公正な質の高い教育を確保する」や「レジリエントで持続的な都市や人間環境を実現する」といった関連するのはあるのですが、文化というのがSDGs にまともに入っていないという事に今になって気付きました。

それでは良くないので、ぜひSDGs と文化との関連を逆に訴えていくべきだと思います。また、そういう点についても一緒に考えさせていただければありがたいと思います。少し長くなりましたが、質問と感想と意見です。

【進 行】:

ありがとうございました。SDGs については、学長、何かございますか。

【学 長】:

SDGs に関しまして、ご指摘ありがとうございます。確かにおっしゃるとおりですが、指標のうち「成安造形大学はこことここをやります」という、そういう限定は非常にしづらいです。県の方でも私は申し上げましたが、ただ12の指標全てが、これからの社会にとって必要なものであるということで、われわれはデザインとかモノづくりに関するものは、それら全部をしっかりと認識し、モノづくりや芸術活動をしていく必要があると思っています。

大学として、個々の何かの目標について啓蒙運動をしますとか、そういうことではなく、教育の中で個々の学生がしっかりとSDGs のような認識をもって、今後モノづくりをしていくという、そういう教育を心がけたいと思っています。そういった事を教育の仕組みの中に組み込んでいくような方法を、検討したいと思っています。他の大学さんとはアプローチが違うかもしれませんが、基本的にはそういう感想を今、持っています。

【進 行】:

それ以外の項目でご意見頂いていますが、まず、受託事業につきましては、今、具体的な数字が挙がってきませんが、だいたい産官合わせて年間1,000万円ぐらいの実績を積んでいます。

その中には、県の方とも一緒にやらせていただいています、ああいったポスター類も含んでいます。企業さんですと、最近、月の輪自動車教習所の登録マークを作らせていただいて、それをステッカーにするという、そういった事もさせていただいています。なかなか芸術という分野で大きな規模というのは難しいかと思いますが、そういった企業さんや公共団体等からも頂いた要望については、応えられるような体制づくりは地域連携推進センターという部署を設けて対応させていただいています。ただ、それが学生の生きた教材の場になっ

ているということで、本学の一つの教育の特徴になっていると考えています。

それから外部評価について、大変申し訳ございません。これは目標が見えない中での評価というのはなかなか難しいのではないかとするのは、おっしゃるとおりです。本学につきましては、昨年、中長期経営計画を策定いたしまして、これにつきましては、来年度、令和3年度で一回指標を見ようと考えています。ただ、指標が出た段階で、外部評価員の皆さまにもお知らせできるような、お伝えできるようなものをつくっていきたいと考えています。その際は、ご意見を頂ければと思っています。よろしく願いいたします。それでは、続きまして、(2)さま、何かございますか。

【県内企業（情報通信業）部長】

今日初めて来させていただいて、いろんなご説明を受けたのですが、何分、初めのレベルが低いので、とてもじゃないですが、評価というものに値するかどうか分かりませんが、抽象的なものになります。

やはり、今まだコロナが昨年4月から、今年度それから来年度と、当然影響が大きく学生活動には及ばざるを得ないという中で、それをどのようにマイナス面を減らしてプラス面を最大化していくかということが、大学に求められると思います。

先ほど伺ったように、対面授業が欠かせない芸術大学の性格がありますので、かなり一生懸命、工夫されてオンラインから脱して対面に持ち込むということは、早い時期に行われたのだらうと思います。アート面の実習、それと地域連携などでも非常にやりにくかった一年間で、来年度もコロナが伴うという予測ができますので、そういったところで、いかに難しい中で学生が「この大学に来てよかったなあ」と「非常に多くの事を学んだなあ」というふうに思えるようなサポートを、先生と大学双方がかなり努力をしていただきたいというのが、この成安造形大学さんがどうされたのか詳しく分かりませんが、やはり大学生全般を見て、昨年度は、納めた授業料に対する対価というのが十分に得られたかということです。これは教育だからすぐに対価を得るというものでないというのを承知した上なのですが、やはりそれは長い目で見て、なかなか取り返せないというか、自分の人生に役立ったと思えるのは、非常に難しい1年間だったと思います。今年卒業される方は仕方ないのですが、新たに入ってくる方、あるいは引き続きこちらで学ばれる方を、どのようにしてこの限られた状況の中で、芸術大学としてサポートできるかというのを、さらに発展させていただきたいと思いました。

それと一つ、期待といいますか、今日のテーマとして思った事は、先ほどおっしゃいましたが、このコロナの中でアートというのは、非常に大事な要素だと思います。なくなるととても殺伐として、世の中が本当にうまく回らなくなり、人の心もうまく回らなくなるということがあるのではないかと思います。

そういった中でアートのセンスだとか技術というのを、ここで学ばれた方がいかに社会に還元していくかということで、これまでだったらあまり直接結び付かなかった業種や

分野でも、本当に発揮できる場所はたくさん需要があるのではないかと思います。

手前のことですが、報道機関、新聞社は非常に古い産業であって、そういったセンスが非常に欠けていると言われていまして、これを新聞社の Web の方で力を入れているときに、決定的なのはデザイン性です。

この前、仏教関係の友人と話していると、「お寺もそうなのですが、仏教界も非常に古くて、若者に言葉を持っていなくて、ただ大事なものというのは、やはり仏教の中にあります。それをどう伝えていくかということで、新しい言語であるとか、新しいメッセージの伝え方を、もう少し学ばなければいけない」と言っていました。

そこはまさに新聞も同じでして、直接新聞を読んでいる読者は高齢化していて、若い人にはなかなか読まれません。しかし、ジャーナリズムとして守らなければいけないところは、そこはきちっとどの時代でも表さないといけません。それを届かせるために、やはり自分たちが活字にして送り出したというだけでは、とても届かないのではないのでしょうか。そこにデザインや新たな見せ方、聞かせ方、読ませ方というふうな工夫を、もっと外部とサポートしてもらって、アドバイスを受けて自分たちもやっていかなければならないと考えることが増えてきたので、そういったところに、ここで学んだ、あるいは先生は今でもそうだと思いますが、やり取りしていく上でプラスになるような事というのは、可能性として残っているのではないかと感じました。

それと、質問ですが、先ほど、アニメーションであるとか、アート全般そうかもしれないのですが、非言語メッセージということでいくと、日本語に捉われない部分で、海外で日本にアウトプットしていく、あるいは海外からインプットしていくという部分のメリットというか、その主張は非常に大きいかと思うのですが、そのような国際交流であるとか、海外からの刺激を受けたり、海外に学生を送り込んだり、今はなかなかコロナ禍で簡単ではないかもしれませんが、ここはどういうふうに現状行っておられて、これからどういうふうな形で広げていかれようとしているのかを、教えていただけますでしょうか。

【進 行】:

ありがとうございます。まずは、コロナ禍における対応等についてですが、6月から、先ほども少しお話がありましたが、対面授業を開始しました。造形大学ということで、対面での授業というものを大変重視しておりまして、そのスタートに向けて学生さんには学習面での支援と、それから経済的な支援ということで、大きく 2 本柱でこれまで取り組んでまいりました。

学習支援につきましては、先ほどの衛生管理など、スプレーボトルの話とかああいったこと、全般的なところで学生さんが学内で対面を受けていただくに当たり、安全に受けていただけるような工夫を行い対応してまいりました。

経済的な支援につきましては、奨学金とかそういったものは国の制度が充実しておりますので、そういったものを柱として、本学独自で一定の基準を設けまして、学費の減免事業

を開始しています。あと、学内独自の奨学金がございますので、そういった枠を広げています。あと、県の方から頂きました食料支援なども、定員以上の部分については学内で負担し、要望のある学生さんにはお配りするといった形で、こういう 2 本柱で取り組んでまいりました。

それが十分であったかどうかというのは、これから検証も必要だと思っておりますが、本学としては、貴重な経験をこのコロナ禍でさせていただいたということで、今後もああいった事が起こったときでも対応できるように、さらなるそういった体制は充実していきたいと考えています。

それから海外との国際交流の件ですが、昨今、本学では特に中国アジア圏からかなり留学生の受け入れを増やしています。海外版の Web サイトも構築いたしまして、海外からも大学の事を知っていただける機会を設けています。あと日本語学校との連携も強めています。無尽蔵にというわけには当然ございませんが、一定の枠を設けながら海外からの留学生を受け入れし、日本人学生との交流も進めている状況です。

本学の日本人学生につきしては、昨年度は、先ほどおっしゃいましたとおり、こういったコロナ禍で留学生の派遣という部分では見送らせていただきましたが、海外の大学とも 4、5 校と交流協定を結んでおりますので、そちらの大学と交換留学という形で相互に派遣を行っている状況です。この辺りも今後、続けていきたいと考えています。なお、留学生の受け入れは、だいたい今、950 人ぐらい日本人学生がおりますが、そのうち 100 名ぐらいが留学生になっています。1 割を目途にということで、枠を設けて受け入れをさせていただいています。やはり留学生のニーズは高まってきています。それに合わせて、本学には留学生支援センターを設置しながら、留学生の入学後のアフターフォローも今、充実させようということで体制を整えています。それでは最後に、(3) さまからお願いいたします。

【県内企業（製造業） 代表取締役社長】：

本日は誠にありがとうございました。私も評価ということは言えないと思いますが、感想とお願いを 2 つほどさせていただきます。

私も成安造形大学の学生さんとは、たびたびいろんな所で関わらせていただいています。本当にその機会を楽しみにしています。

なぜかと言いますと、一つは、こちらの学生さんは、自分がやりたい事とか、これが好きだという価値観を、非常に強烈に皆さん持っていらっしゃいます。いろんな大学を回らせていただいた中で、そういう所は結構少ないです。「何がしたいのか分からない」とか「何か好きだ」ということが分からないことが多い中で、こちらの学生さんは、本当に自分の価値観とか何がしたいという事をはっきり考えられています。私もあまり強い思いを持って生きてこなかったのが憧れを感じていますが、本当に素晴らしい学生さんがいらっしゃると思っています。

それと同時に、皆さん、社会性が非常に高いです。私は普段、接していて思っているのは、

キャリアのレベル、取り組みのレベルの高さが、そのまま学生さんのレベルに直結していると感じています。成安造形大学さんは就業力育成の授業をされていて、ここも私や弊社の担当も関わらせていただいていますけれども、本当にこの授業の中で学生さんの成長が見えます。1年生のころからずっといろいろ関わっていると、本当にそういう熱意とか価値観や自分の好きというところを持っていくところと、社会性が高く、私たちと対等に話ができることがあります。本当に成安造形大学の学生さんと何かできるという機会は、私も非常に楽しみにいつもしています。

そこは感想ですが、お願いとしては2点あります。一つは、それだけやはり素晴らしい学生さんがたくさんおられるのですが、まだまだ地域の一般企業にそこが伝わっていません。

経営者から見ても、いろんな人から「芸大は何しているの」とか「芸大の学生さんは、僕らの会社に来てやる事ないでしょう」という話を聞きます。私は付き合っている中でそうではないと思っています。けっこういろんな企業の課題に、学生さんの視点から新しい気付きを頂いて、そういう機会が非常に多いと思っています。もっともっと地域の企業にこちらの学校に素晴らしい学生さんがいっぱいいるということを知ってもらいたいと思います。

インターンシップの取り組みが、まだまだ余地があるのかなと思います。例えば、京都デザイン専門学校さん、内容は一緒ですけども、短大2年制ですが、1年生全員をインターンシップに行かせます。100名を超えていますが、全員行かされます。そこはキャリアセンターの方が非常に苦勞なさっていますが、そこは私たち企業団体、滋賀県の600社の企業がグループになっている中小企業家同友会という団体で、共同求人活動という、主に採用活動の組織のトップをやらせていただいています。そこで協力をさせていただいておりますので、もし成安造形大学さんも今後インターンシップをさらに拡充させたいという時には、私どもはいくらでも協力させていただきますので、ぜひ単位の面と機会の面で学生さんにインターンシップできるように、後押しをいただきたいと思っています。

これは企業の側も学生の側も悪いのですが、インターンシップというのは、就職活動の前段階として捉えられていますが、私はそうではないと思います。弊社のインターンシップに来た学生には、「うちに来なくていいから、うちの社員と話して、世の中の働いている大人たちは、何を考えてどんなことを感じながら生きているか、知ってくれたらそれでいいよ」と言っています。そういう事は、私どもにとっても社員教育にもなりますし、今の若い世代のことを知る機会につながりますし、本当に貴重な事だと思います。それが就職活動の一部として矮小化されているのは、私は課題かなと思っています。就活ではなく自分たちが持っているものや、自分たちが好きなものが、社会にどんなふう役に立つか、どんなふうに使えるかという事を知っていただく機会として、ぜひインターンシップに出していただきたいと思っています。

こちらの方でも今、COCさんとコンソーシアムさんの方には参加いただいていると書いていますが、滋賀県の方でも、前まで「オール滋賀インターンシップ」、今年から「しがプロインターン」という名前に変えておりますけれども、そちらでもかなり大々的にインター

ンシップのプログラムを県でも後押しされていますので、ぜひそちらにも、学生さんを送り出していただきたいと思います。

もう一つは関係ないのですが、以前、私は友人の経営者から、事業の中でプロモーションのアニメーションを作りたいという相談をいただきまして、産学連携でやればいいと、成安造形大学を紹介しました。

ところが、オンラインで学生さんの成果物を見ることのできるコンテンツが、そのときにはありませんでした。京都芸術大学さんは、実はそれを行っていて、インターネットから、学生さんが今まで産学連携で、卒業制作でどんなアニメーションを作ったかと、検索して見ることができます。結局、こちらを推していたのですが、彼はそちらの方に行ってしまいました。そこは非常にもったいないと思います。今日、センターの方でも学生さんのポートフォリオを紙ファイルにまとめてありましたが、ぜひあれも、すでにされているかもしれませんが、オンラインで企業向けに検索性を工夫して公開していただけると、よりつなぎやすいのかなと思います。以上です。

進行

：ありがとうございました。非常に貴重な意見を頂戴しました。インターンシップにつきましては、キャリアサポートに早速伝えます。また、ご協力をいただきたいと思いますので、その際はよろしく願いいたします。オンラインの件につきましては、これは早急に取り組める部分は取り組んでいきたいと思っていますので、そういった事ができましたら、ご紹介いただければと思っています。

貴重な意見を頂戴いたしましてありがとうございます。今後の教育研究の参考にさせていただきます。先生方も特によろしいでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは時間となりましたので、これで「第1回成安造形大学外部評価」を終了させていただきます。外部評価委員の皆さま、本当にお忙しい中、本日は誠にありがとうございました。今後とも、本学の教育研究に際しましては、ご支援、ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。